

※記載の修正がございましたので改めて修正版を掲載致します。

令和4年度琉球大学法科大学院

A日程 法学未修者コース記述式試験 問題

令和3年9月5日(日曜日)
10時00分～10時45分(45分)

- 1 試験開始後、問題文に不具合があれば直ちに申し出てください。
- 2 解答用紙の冒頭欄に印刷されている試験科目名の文字を丸で囲み、また空欄に数字を記入して、その解答用紙が「何法に関する答案の何枚目であるか」を示してください。また、答案に用いたすべての解答用紙の所定欄に、受験番号と氏名を記入してください。
- 3 黒色または青色であれば、筆記用具は問いません。ただし、鉛筆書きの場合は文字が薄くならないように十分注意してください。
- 4 試験開始後は、途中退席できません。用便を希望する際は手をあげてください。
- 5 試験終了後、解答用紙を回収するので、指示があるまで席を立たないでください。
- 6 その他は、すべて監督者の指示に従ってください。

次に掲げる文書は、ある活動報告の抜粋である。この文章を読み、以下の設問に答えなさい。

【活動報告】

(文章については、著作権の関係で当 Web ページには掲載していません。)

(出典) 「スマートフォンを活用した人生総幸福量の最大化の試み
～100歳で50代の脳年齢を目指す天草スマートカレッジの取り組み～」
(天草幸福量研究会代表 山口 誠治)

(※1) 限界集落とは、過疎化などで人口の50%以上が65歳以上の高齢者になり、冠婚葬祭などを含む社会的共同生活や集落の維持が困難になりつつある集落を指す日本における概念。

【設問】

この活動報告の筆者がコミュニティーの再生に必要だと考えているものは何かを明らかにし、その趣旨を踏まえつつ、高齢化が進む社会において、スマートフォンを初めとする IT 技術の活用により、活力あるコミュニティーを再生することができるのか、できるとすれば、それはいかにして実現されるか、あなたの考えを述べなさい。

以上

【出題趣旨】

本問の題材は、ある自治体の複数地域で行われた「高齢化社会の抱える問題解決に向けた活動」の報告文である。ここで報告された活動は、活力あるコミュニティーの再生を目指すものであるが、筆者は、その達成度を市民の幸福量で計る立場に立ち、幸福量の調査指標としてマズローの「人間の基本的欲求説」を用い、その観点からは、コミュニティーの成長プロセスと被災地域の復興プロセスが一致している旨指摘している。

設問は、このような筆者の思考の論理構造を正確に理解し、簡潔に示しつつ、マズローの学説を踏まえて、「活力あるコミュニティーの再生」とは具体的にどのようなものであるか、自由な発想の下に、説得的に論証することを求めている。

【採点基準】**1 「筆者がコミュニティーの再生に必要だと考えているもの」の指摘(15点)**

- | | |
|----------------|-----|
| ① 下記のポイントの押さえ方 | 10点 |
| ② まとめ方(論理性、表現) | 5点 |

《ポイント》

- ・ 充実した幸せなコミュニティーであることが必要。
- ・ そこに暮らす人々に共通する人間としての基本的欲求が満たされていることが必要。
- ・ 幸福を感じる基本的欲求とは、①身体健康(生理的欲求)、②生活の安心(安全の欲求)、③信頼の関係(愛と所属の欲求)、④役割の充実(承認の欲求、自己実現の欲求)であること。
- ・ コミュニティーの成長のプロセスと、甚大災害に見舞われた被災地域での復興のプロセスとが一致していると考えられること。

2 「高齢化が進む社会において、スマートフォンをいかに活用すれば活力あるコミュニティーを再生することができるのか」についての受験生の意見(30点)

- | | |
|-------------------|--------|
| ① 自身の論拠の説得性 | 15点 |
| ② 反対の立場への配慮 | 8点 |
| ③ 全体的な論理性、説得性、表現力 | 7点 |
| ④ 裁量点 | 0~+10点 |

《ポイント》

- (a) 高齢化社会の問題を指摘しているか。
- ・ 過疎化
 - ・ 空き家問題
 - ・ 限界集落

- ・ 情報共有の困難さ
 - ・ 移動手段の不足, 移動の困難さ
 - ・ その他
- (b) 次の観点から, 前記(a)の各問題点などに対し, スマホの活用による具体的な対策を論じているか。
- ・ 身体健康(生理的欲求)
 - ・ 生活の安心(安全の欲求)
 - ・ 信頼の関係(愛と所属の欲求)
 - ・ 役割の充実(承認の欲求, 自己実現の欲求)
 - ・ その他

以 上